未記載種ハチ2種確認

西目屋で2回目「白神バイオブリッツ」

本県、本州初記録の昆虫も 専門家と親子が調査

弘前大学農学生命科学部附属白神自然環境研究センター（センター長・中村剛之教授）は15、16日、専門家と親子ら一般市民が一緒に生物調査を行うイベント「白神バイオブリッツ」を、附属施設である西目屋村の白神自然観察園で行った。東北初開催となった昨年に続き2回目で、全国各地から参加した自然愛好家や専門家スタッフら132人が、昆虫や植物、キノコなどを観察、採集してリストを作成。907種を採集し、うちハチ2種が未記載種、複数の昆虫が本県や本州初記録と確認された。中村センター長は「さまざまな世代に白神の自然の豊かさに触れてもらいたい。将来は山だけでなく、（白神山地周辺の）海岸や湿地などへ活動の場を広げていけたら」と意欲を示す。（鈴木滋）

沢で捕まえた生き物を採集容器に入れる参加者

イベントは決められた地域の動植物を24時間かけて調査するもので、昨年は鰺ケ沢町黒森地区の白神の森遊山道で行った。

北は北海道、南は京都からの親子連れら53人と、県外各地の専門家や津軽植物の会、白神キノコの会、津軽昆虫同好会、弘前大学フィールドサイエンス研究会のメンバーら79人が参加。昆虫や植物、鳥やキノコなどおのおのが好きな分野の調査に取り組んだ。

両生類・爬虫類を調査したグループは、池やその周辺でサンショウウオやカエルなどを捕まえた。昆虫を調査したあるグループは、木の根元のアリ塚や腐肉のトラップを仕掛けた周辺の土をふるいにかけ、それらに集まる甲虫を探し出した。参加者は散策道を歩き回って採集を楽しみ、専門家の採集の手法を間近で見て学びを深めた。

調査は夜も続き、光で虫をおびき寄せるライトトラップには200種ほどのガなどが集まった。

今回の調査で確認した907種の内訳は植物298種、キノコ40種、昆虫427種、両生類・爬虫類12種、哺乳類4種、無脊椎動物74種だった。

採集した生き物は専門家らが顕微鏡で調べたり、図鑑と照らし合わせたりして特定し、リスト化した

東京都から両親と参加した小学3年の遊佐柊希さんは昆虫が好きと言い、「ここには虫がいっぱいいて、虫が好きな人もいっぱいいて楽しかった。次も参加したい」と笑顔を見せた。

中村センター長は「高温と強い日差しの影響でいるはずの生き物がいなかったりして苦戦したが、（参加者は）活発に一生懸命やってくれた」とし、イベント実施により白神の自然保護・保全活動の担い手育成の機運醸成が期待できることから、「直接自然と触れ合い、活動に携わる人が増えていってくれたら」と語った。

この画像は，当該ページに限って”陸奥新報”の記事利用を許諾したものです。転載ならびにページへのリンクは固くお断りします。